

陳 情 文 書 表

(教育委員会)

受理番号	4506	受理年月日	令和8年2月16日
件名	より良い中学校給食の実施		
要旨	<p>令和10年の秋から全員制の中学校給食が、温かい給食で開始されることに保護者からも喜びの声を聴いている。</p> <p>京都市の小学校では、多くの給食関係者や教育委員会の努力によって、安全な食材に伝統的な和食を多く取り入れた自校方式の給食が行われ、また季節の行事食もあり、子供たちもとても喜んでいる。学校給食は教育の一環である。そのためには、身近な所で調理されている、栄養教諭や調理員との交流がある、地産地消の食材が使われているなどが条件となり、何より、子供たちがおいしいと感じ、感謝の気持ちが芽生えるより豊かな給食が大切である。</p> <p>この度、南区に2万食の大型給食センターから、山科区には4校、あとの2校は別の所からと決まった。山科までトラックで運ばれる大規模センターの給食は、どうしても出来てからの時間がたつため、食感や香り、温かさ、味がそのまま中学生の下へ届くのか疑問である。また、五条坂等の交通渋滞が予想されるため、2時間喫食が守られるのか、食中毒等の被害の拡大も懸念する。また、山科は過去に川の氾濫による水害にも遭っており、中学校に給食室を造ることは災害時にも機能を発揮するのではないか。</p> <p>同じ東洋食品でセンター給食を7,000食規模でしている木津川市の実態を聞いたが、2時間喫食が守られない、以前の自校式給食に比べるとかなりおいしさは変わり、身近な所で作ることが大切であること、調理員がぎりぎりの人数で切り盛りしているということも聞いた。余裕のある調理を考えても小規模なセンターが望まれる。</p> <p>山科区内で学校調理の給食を望む。山科には花山中学校、勤修中学校等、生徒の人数基準に比してグラウンドが広い中学校もある。グラウンドに給食室を建設し、山科の他校へ運ぶ自校方式、兄弟方式の給食は実現可能ではないか。また、それが困難な場合、山科に給食センターを建てられないか、再検討を求める。</p> <p>については、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 山科の中学校の全員制の学校給食の実施に当たっては、子供たちができるだけ出来たての給食を食べられるよう山科での自校方式、兄弟方式、又は、山科区の給食センター建設を検討すること。 2 中学校給食の調理に当たっては、調理員を増やすこと。 3 給食の内容や食育の充実のため、1校に1名の栄養教諭を配置すること。 4 京都市全体も、大規模な給食センターを再検討し、地域に分散した小規模の給食センターにすること。 		
陳情者			
回付委員会	文教はぐくみ委員会		